

平成 25 年 5 月 6 日 作成 時田茂樹

平成 25 年 5 月 16 日 修正 時田茂樹

第 68 回日本物理学会年次大会インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会総会) 議事録 (案)

日時 : 2013 年 3 月 27 日 (水) 17:00 ~ 18:00

会場 : 広島大学東広島キャンパス 文学部 1 階 B102

出席者 (順不同・敬称略) :

安東、佐々木、鎌田、鷺尾、野田、栗木、余語、黒田、小方、中村(剛)、フラナガン、岩下、
想田、小山、岡本、浦川、濱、坂上、時田、宮本、平田、高井、阿達、時田

司会 : 高井

書記 : 時田、阿達

配布資料 :

2013S-1 : 前回議事録

2013S-2 : 2012 年ビーム物理研究会・若手の会開催報告

2013S-3 : Web 管理担当者から

2013S-4 : APPC12 の開催について

2013S-5 : PTEP 関連の報告

議事内容 :

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - A. 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - B. ビーム物理研究会関連
 - C. 日本加速器学会関連
3. その他

1 前回議事録確認

2012年8月9日に開催された第9回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会世話人会)の議事録(配布資料:2013S-1)について内容確認が行われた。時間的な制約から内容の読み上げは省略されたが、意見・コメントはなく、承認された。

2 報告・審議事項

A. 日本物理学会ビーム物理領域関連

[大会関連]

A-1. 一般講演件数の推移

今大会における他領域との講演数の比較、過去8年間における春の物理学会での一般講演数の推移、所属機関別の内訳がグラフで示された。前回大会では77件(合同セッションを除くと70件)で全領域中最少であったが、今大会では162件に増加し最下位から5番目まで浮上した(合同セッションを除くと74件で最少)。他領域との合同セッションを多く企画できたのが理由。大学からの講演が多く、KEKやJASRI等の研究所からの講演が少ない傾向は前回と変わっていない。

議論・コメント

- 若手奨励賞の人数に関係するのは合同セッションを含む件数なので、やはり全体の件数が重要である。
- やはり全体の件数は重要。物理学会にはその数字しか見えない。

A-2. 他領域との合同セッションについて

全大会では企画した5件のうち1件のみが成立したが、今回は企画した6件すべてと+1件が成立した。講演数は7件のシンポジウムの合計で126件であり、そのうち当領域の寄与は38件である。

A-3. 招待・企画・シンポジウム講演について

招待・企画講演は前回大会では1件も実施されなかったが、今回は招待2件、企画3件を実施した。シンポジウムは前回大会では主催を1件、共催を1件であったのに対し、今回は主催を2件、共催を2件実施した。

A-4. 若手奨励賞について

前は該当事者がなかった。今回は平氏(産総研)と時田氏(京大)の2件。毎年応募件数が少ないため積極的に応募するよう呼びかけられた。

A-5. 来年度大会(秋季・春季)までのスケジュール

次回の年次大会までの主なスケジュールが確認された。次回の秋季大会は、素核宇ビが

2013年9月20日から23日まで高知大学朝倉キャンパスで開催され、物性が9月25日から28日まで徳島大学常三島キャンパスで開催される。年次大会は2014年3月27日から30日まで東海大学湘南キャンパスで開催される。重要な締め切り日は次の通り。

秋季大会

- シンポジウム申込〆切（素核宇ビ）：4月26日
- シンポジウム申込〆切（物性）：5月13日

年次大会

- 合同セッション申込〆切：2013年9月上旬
- 招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演の〆切：2013年11月上旬
- 一般講演の申込〆切：2013年11月下旬

[領域運営関連]

A-6. 次期執行部と事務局の確認

次期の研究会副会長として佐々木茂美氏（広大）ならびに安東愛之輔氏（KEK）が推薦され承認された。また、領域副代表として佐々木茂美氏が推薦され承認された。上坂氏の会長就任に伴い、研究会の事務局が東京大学上坂研究室に移転することが知らされた。現在の体制は以下の通り。

ビーム物理研究会

任期	～2013/3		2013/4～2015/3
会長	安東 愛之輔（KEK）	→	上坂 充（東大）
副会長	上坂 充（東大） 濱 広幸（東北大）	→	佐々木 茂美（広大） 安東 愛之輔（KEK）

日本物理学会ビーム物理領域

任期	～2013/3		2013/4～2015/3
会長	濱 広幸（東北大）	→	上坂 充（東大）
副会長	安東 愛之輔（KEK）	→	佐々木 茂美（広大）

A-7. 次期領域運営委員（2013/10～2014/9）について

現領域運営委員の時田氏（京大）の後任として、JAEAの余語覚文氏が紹介され、承認された。任期は2013年10月から2014年9月までの1年間。現在の体制は次のとおり。

期間	領域運営委員
2011年10月～2012年9月	西内 満美子（アドバイザー）
2012年4月～2013年3月	高井 良太（現委員）
2012年10月～2013年9月	時田 茂樹（現委員）
2013年4月～2014年3月	阿達 正浩（引き継ぎ中）
2013年10月～2014年9月	余語 覚文

B. ビーム物理研究会関連

[研究会合関連]

B-1. ビーム物理研究会 2012 開催報告

栗木氏（広大）より、配布資料（2013S-2）に基づいて今年度行われたビーム物理研究会について報告がなされた。

- 日程：2012年11月29日（木）～30日（金）
- 場所：広島大学東広島キャンパス、学士会館
- 招待講演：
「ヒッグス粒子（？）の発見と今後の展望」川越 清似（九州大学）
「ILC 加速器とその超電導技術の開発」早野 仁司（KEK）
- 一般講演：11 件
- 参加者：50 名
- 懇親会参加者：38 名
- 研究会へ学生の参加者を増やす工夫が必要。（例年参加者が少ない）

B-2. ビーム物理若手の会 2012 の開催報告

栗木氏（広大）より、配布資料（2013S-2）に基づいて今年度行われたビーム物理若手の会について報告がなされた。

- 日程：2012年11月30日（金）～12月1日（土）
- 場所：宮島、杜の宿
- 若手ポスター発表：17 件
- 研究室紹介：7 件
- チュートリアル講演：「Radiation2D で簡単グラフィカルに理解できる電磁放射の理論」新竹 積（OIST）
- 企業から：「三菱重工における加速器事業への取り組み」人見 晴樹（三菱重工）
- 参加者：40 名（宿のキャパシティのほぼ限界）

B-3. 次回の研究会・若手会について

栗木氏（広大）より、配布資料（2013S-2）に基づいて次回のビーム物理研究会・若手の会の計画についての説明があった。

- 場所：沖縄科学技術大学院大学（OIST）を予定（内定）。
- 沖縄開催には旅費の問題と現地の人的資源の問題があるので、皆様の協力をお願いしたい。
- 今年度、研究会は黒字、若手の会は赤字、全体としては黒字（¥52,605）という収支となった。

- 今回の余剰金を研究会の基金として開催機関持ち回りで管理することが提案され、承認された。

[研究会運営関連]

B-4. Web 担当者の増員と会員名簿の公開について

Web 管理担当者の宮本氏より、現在の Web 管理の状況について説明があった。

- 2012 年 6 月より管理者が以下の体制に変わっている。
サーバー管理：倉田 進 → 佐藤政則 (KEK 入射器)
Web 管理：安東愛之輔 → 宮本 篤 (広大放射光)
- ビーム物理通信：掲載内容は会員からの依頼を主としている。現状では ML に流れた情報を主に掲載している。ML を積極的に活用してほしい。
- 名簿管理：会員名簿 (氏名、所属) を月単位程度で更新できるようにしたいが、作業がほとんど進んでない。また、所属の追跡をどうするのか決まっていない。
- 担当者募集：Web 担当者を 2 名に増やしたい。海外からはアクセスできないなど、1 名では問題がある。希望者は宮本氏までメールにて連絡のこと。

B-5. 会員名簿・メーリングリストの管理について

会員名簿およびメーリングリストの管理を現在の JASRI (担当者：中村剛氏) から他所に移管する可能性について議論がなされた。議論の結果として、JASRI で引き続き管理し、担当者を JASRI の藤田貴宏氏にお願いすることとなった。

議論・コメント

- JASRI から移管するとアドレスが変わってしまうので JASRI でやってもらうしかない。
- VPN は使えるか？ → 現状では VPN はつかえない。
- とりあえず藤田氏にお願いし、引き続き議論する。当たり前をお願いするのはよくないから、会長からの何らかの感謝のしるしをお送りするのはどうか。
- メーリングリストへメールを流す手順が決められていない。たとえば、会長のチェックののち、流すようにすればどうか？

C. 日本加速器学会関連

C-1. 第 10 回年会について

次回の年会までの主なスケジュールが確認された。次回の年会は、2013 年 8 月 3 日から 5 日まで、名古屋大学東山キャンパスにおいて開催される重要な締め切り日は以下のとおり。

- 発表申込期間：2013 年 5 月 1 日 (水) ～6 月 17 日 (月)
- 参加申込期間：2013 年 5 月 1 日 (水) ～7 月 20 日 (土)
- プロシーディングス提出〆切：2013 年 7 月 29 (月) 14:00

3 その他

3-1. APCC12 の開催について

The 12th Asia Pacifica Physics Conference (2013年7月14日～19日、幕張メッセ) への参加が呼びかけられた。アブストラクト締め切り日は4月10日。プロシーディングスはJPSJより出版される。

3-2. PTEP の現状について

黒田氏(産総研)より、PTEP (Progress of Theoretical and Experimental Physics) の概要と現状についての説明がなされた。

- 出版社は Oxford University Press
- オープンアクセスの論文誌で、2013年無事に創刊となった。
- 博士論文も投稿できる。NIM等よりはこちらへ投稿してほしい。
- ビーム物理のほぼすべての分野を含んでいる。
- 現状では投稿数が少ない。分野が一致するので、JJAPより投稿しやすい。
- 投稿料が高いが、所属機関によってはKEKと理研のサポートが受けられる。
- 投稿料のサポートについて Web上の記載ではわかりにくい。噛み砕いた説明をビーム物理 MLで流してはどうか。
- 本格的な英文校正が出版社にて行われる。

3-3. その他

安東氏よりコメント・提案があった。

- 今回の年次大会にて多くの合同シンポジウム等を開催できたことは運営委員の高井氏の尽力によるところが大きい。今後の企画提案の進め方について、何か提案はあるか? → 少人数の方が意見をまとめやすい場合もあり、一概に言えない。
- 加速器の基礎的・先端的な内容に関するシンポジウムを今後継続的に企画していくべき。例えば SACLA や J-Parc 関連を取り扱ってはどうか。

3-4. 次回の総会・世話人会について

次回の世話人会は2013年8月の日本加速器学会年会(名古屋大学)、総会は2014年3月の日本物理学会年次大会(東海大学)の会期中に行うことが確認された。

以上